

また、それぞれの従属変数の悪化者数、維持改善者数と割合を独立変数毎に求めた。

・従属変数の定義

要介護度等、基本チェックリスト、主観的健康観の維持改善の定義については、全体の解析と同様である。運動器の分析では、開眼片足立ち時間、TUG 時間、5m 通常歩行時間、5m 最大歩行時間を新たに変数に加えた。これらの運動器指標は、1 回目調査時の男女別、特定高齢者・要支援者別の 5 分位を基準として（機能が高い者を 5、機能が低い者を 1 と定義した）分類した（表Ⅲ-1）。5 回目の調査時の体力測定項目も、この基準に従って分類し、それぞれの変数が 5 回目の調査時が 1 回目調査時に比較して低下している者を悪化、変化がないか向上している場合に維持改善と定義した。また、特定高齢者と要支援者では、対象が違うこと、またサービス実施の要綱が違うことから、全数、特定高齢者、要支援者（要支援 1・要支援 2）の 3 つのデータセットで同じ分析を繰り返した。

表Ⅲ-1 運動器アウトカム指標のレベルの定義

	レベル	握力	開眼片足立ち時間	TUG	5m歩行時間(通常)	5m歩行時間(最大)	
男性	特定 高齢者	1	<=20.9	<=2.6	13.0+	7.2+	5.4+
	2	21.0 - 25.3	2.7 - 4.7	12.9 - 11.0	7.1 - 5.7	5.3 - 4.4	
	3	25.4 - 29.2	4.8 - 9.5	10.9 - 9.1	5.6 - 4.8	4.3 - 3.7	
	4	29.3 - 33.0	9.6 - 23.7	9.0 - 7.5	4.7 - 4.2	3.6 - 3.1	
	5	33.1+	23.8+	<=7.4	<=4.1	<=3.0	
	要 支援者	1	<=17.9	<=1.9	23.0+	11.9+	9.3+
	2	18.0 - 22.0	2.0 - 3.6	22.9 - 16.6	11.8 - 8.6	9.2 - 6.6	
	3	22.4 - 25.3	3.7 - 6.0	16.5 - 13.0	8.5 - 7.0	6.5 - 5.2	
	4	25.5 - 30.0	6.1 - 13.9	12.9 - 10.2	6.9 - 5.6	5.1 - 4.2	
	5	30.1+	14.0+	<=10.1	<=5.5	<=4.1	
女性	特定 高齢者	1	<=14.9	<=3.0	12.8+	6.9+	5.5+
	2	15.0 - 17.6	3.1 - 5.5	12.7 - 10.2	6.8 - 5.4	5.4 - 4.4	
	3	17.7 - 19.9	5.6 - 10.0	10.1 - 9.0	5.3 - 4.8	4.3 - 3.8	
	4	20.0 - 22.4	10.1 - 24.9	8.9 - 7.6	4.7 - 4.1	3.7 - 3.2	
	5	22.5+	25.0+	<=7.5	<=4.0	<=3.1	
	要 支援者	1	<=10.9	<=1.4	23.2+	12.3+	10.2+
	2	11.0 - 13.4	1.5 - 2.8	23.1 - 17.7	12.2 - 9.1	10.1 - 7.3	
	3	13.5 - 15.9	2.9 - 5.0	17.6 - 13.8	9.0 - 7.3	7.2 - 5.9	
	4	16.0 - 18.4	5.1 - 11.0	13.7 - 10.9	7.2 - 6.0	5.8 - 4.7	
	5	18.5+	11.1+	<=10.8	<=5.9	<=4.6	

・独立変数の定義

<実施内容による検討>

マシンによる筋力増強訓練、マシンによらない筋力増強訓練、持久性訓練（自転車こぎ、水中ウォーキングなど）、日常生活動作に関わる訓練、レクリエーション・ゲームの実施の有無を変数とした。なお、それぞれの変数は、1 回目調査時に実施している場合を 1、実施していない場合を 0 と定義し、実施していない場合に対して実施している場合のオッズ比を求めた。